

実践⑥ 串良小学校読み聞かせボランティア「こころのしずく」

「細く永く（長く）、会員が無理なく楽しく活動することが大切。」これは、私が初めてこころのしずくの会に参加した際、先輩方に教わった言葉です。その言葉のとおり、強制的に参加するのではなく、それぞれできる範囲で楽しんで活動しています。この活動理念こそが「こころのしずく」が、平成12年の発足以来23年間、細く永く続いている秘訣だと思います。

「こころのしずく」の活動紹介と言っても、難しいことは一つもしていません。行っているのは、子供が串良小学校に在籍している15人の会員による「週1回の読み聞かせ」、「季節の読み聞かせ」、「親子読書リレー」の3つの活動です。

「週1回の読み聞かせ」は、毎週木曜日に行っています。毎週木曜日に学校へ行き、8時15分から25分までの10分間、担当の学年で読み聞かせを行っています。参加したばかりの会員からは「何を読んだらいいのか分からない」と言われますが、「自分自身が楽しい本、心に残る本、子供たちに聞かせたい本」を基本に選ぶようにアドバイスしてきました。そのため、読み聞かせが、子供たちにとって今までに出会ったことのない本との出会いの場になります。時には、読んだことのある本との再会もありますが、何回読んでもそのときの子供の心の状態によって見方が変わってくると考えています。

「季節の読み聞かせ」は、1年に1・2回、季節やテーマに合わせて行っています。大型絵本を使った読み聞かせだけでなく、ブラックシアターやミニ肝試し、ハンドベル演奏など、子供たちも会員も楽しむことができるイベントも実施していて、毎回大盛況です。

「親子読書リレー」は、親子が触れ合う時間を大切にするために、親子で一冊の本を交代で読み、感想を言い合うという活動です。

これら3つの活動を続けることで、学校の先生方から「静かな雰囲気のままスムーズに授業に入れるようになった」、「子供たちの読書に対する意欲が高まった」など、嬉しい感想をいただくようになりました。また、会員からも「子供たちから『あの本、面白かった。また読んでね』と言われたことで交流が深まった」、「わが子を含め学級での子供の様子が分かる」という感想があり、活動を続けることで、良いことが増えていると感じています。

絵本作家まついのりこさんは、「本を読み終わったとき、光は『心のしずく』になって、子供の心の中にしみこんでいきます」とおっしゃっています。これが私たちのグループ名の由来です。私たちの活動が、子供たちの心のしずくの1滴になるよう、これからも活動を「細く永く」続けていこうと思います。

